



- 館長／副館長の挨拶……………2
- 図書館の地域貢献の取り組み……………3
- 特集—『源氏物語』を考える
『源氏物語』千年紀に寄せて……………4
- 図書館資料の汚・破損／無断持ち出し……………6
- 図書館のギモン／図書館活用ガイド紹介……………7
- 展示の紹介／掲示……………8

[図版写真]
源氏物語 —須磨巻—
奈良絵本 列帖装一帖
(白山図書館所蔵貴重書)

図書館長就任に あたって

いのうえ ひろふみ
井上 博文
〈国際地域学部教授〉



東洋大学附属図書館は、白山図書館、川越図書館、朝霞図書館、板倉図書館の4つの図書館で構成されています。本学図書館の果たすべき役割は、特色ある図書館の確立、利用環境の整備、そして図書館相互協力の充実などです。このことは東洋大学附属図書館の理念に基づいて教育・研究活動推進のための支援機関としての役割を果たすことです。

過去数年間に亘った検討会によって、懸案事項であった「東洋大学附属図書館規則」の改正が行われ、次に各キャンパス所在の図書館規程改正ならびに図書館関連規程も整備されたことで図書館改革が新たに利用サービスの向上に移って来ると思います。

代表館としての白山図書館をはじめ各キャンパスに所在する図書館は、特色ある学部の教育・研究体制のもとに個性形成がされてきています。白山図書館は、文学部・

経済学部・経営学部・法学部・社会学部等の5学部（平成21年度からは国際地域学部含の6学部）、川越図書館は工学部（21年度からは理工学部・総合情報学部の2学部）、朝霞図書館はライフデザイン学部、板倉図書館は国際地域学部・生命科学部の2学部（21年度からは国際地域学部は白山第2キャンパスに移転し生命科学部のみとなる）というように各図書館は学部、大学院の教育・研究体制を背景にした収書を学生・教職員にお願いしていきたい。

次に利用環境の整備ですが、特に白山図書館は6学部及び大学院の学生・教員研究者が集中して利用するマンモス図書館であるため、施設の整備と利用サービスの充実を図らなければなりません。その他に法科大学院、白山第2キャンパス等の分室の整備、2部学生並びに地域住民に対するサービス提供は大きな課題であります。

最後に、図書館の充実には財政的支援がなければ、施設の整備、利用サービスの向上は図れないと思われまます。図書館は限られた予算内で効率よく運営を行うことは言うまでもありませんが、これからの図書館利用方法は、データベース・電子ジャーナルへシフトして、ラーニング・コモンズへとシフトしていくものと考えられますので、それに対処できるよう施設改良ともに図書館コンシェルジュの養成にも取り組んで行きたいと思えます。それには学生・教員・研究者の図書館利用の向上が期待されています。

読書離れ、 理科離れ

こうやま のりひこ
神山 宣彦
〈経済学部教授〉



この4月から副館長（白山図書館担当）に就任しました。100年以上の歴史を持つ都内でも有数の図書館を、学生、教員、地域の皆様にいかに有効に利用して戴くかに知恵を絞ってゆきたいと思っています。

最近インターネット検索で手軽に情報を得られることもあって、学生等の読書離れが深刻です。白山はじめ4つの図書館には130万冊を超える広いジャンルの図書が揃っており、OPACシステムで検索や取り寄せが簡単にできます。学生は、まず、図書館に足を運び、本とともに語学や音楽のCD、DVD等の視聴ブースにも親しんでください。

私は、一般教育の自然科学系の授業を担当していますが、昨今の学生の理科離れをどうにかしたいと思っている一人です。戦後の日本の驚異的な経済復興は、戦前からの高水準の科学技術を生かして人々が懸命に働いた結果であり、資源の乏しい日本は、今後も科学技術力を伸ばしてゆくことが必須です。しかし、理工系入学志願者数は逆に激減しており、理工系学部にとって特に深刻な問題になっています。理科離れは、文系学部でも真剣に考えなくてはならない問題です。これからの学生は、文系といえども科学技術の基礎知識が重要で、その基礎素養は企業等で働くのに必要なだけでなく、育児等を通して次世代の日本にも大きく影響するからです。

最近サイエンスの優れた入門書も多数刊行されています。それらを広範囲に収集した東洋大学附属図書館を大いに活用して、まずはサイエンスの面白さを堪能していただきたいと思っています。もちろん専門課程に入れば否応なく専門書を多数読まなくてはなりません。図書館を積極的に利用して、Google等の検索情報では得られない教養と専門知識を身につけ、世界に通用する人に育ってほしいと期待しています。

図書館の地域貢献の 取り組み

4つのキャンパスの図書館では地域の方々への利用開放を行っています。

今回はそれぞれの機関の代表の方から、東洋大学附属図書館の取り組みについて感想やご意見を頂きました。

東洋大学附属図書館は、地域の皆様に慕われる図書館を目指しています。

文京区民への図書館開放

「大学図書館開放に期待するもの」

毎年、登録される方が何人もいらっしゃいます。それは、大学図書館開放への期待、満足を示しているのではないのでしょうか。そしてまた、それは何よりも、大学図書館が所蔵する資料の魅力によるところが多いのではないのでしょうか。大学図書館ならではの専門書、学術雑誌など。知りたい、調べたいという知的欲求を満たすために、資料を求め、図書館へ。そのための道は、身近な図書館から他の自治体の図書館へ、都立図書館へ、国会図書館へとつながり、そして、今、大学図書館へもつながっています。

学びの場は学ぶ意欲さえあれば、いつでも、どこでも開かれる、とはいうものの、ここへどうぞと誘ってもらえるなら、それはとてもうれしい。

大学図書館には、おそらく、今一度、青春の学びの徒としての思いを新たにさせてくれる魅力もあるように思う。登録証を受け取った方の表情にそんな喜びも感じとっているのは職員の錯覚でしょうか。これからも、そんな喜びを感じ続けたいものです。

文京区本郷図書館長 紫富田 忠和氏

板倉町、館林市への図書館開放

「生涯学習から見た行政サービスと大学図書館開放利用の連携」

行政サービスの一端である図書館サービスには、子どもから高齢者まであらゆる住民に学習機会を提供し、教育機関として十分な機能を有することが望まれています。図書館は知的コミュニケーションの場であり、住民の知る権利を確保する場でもあります。また、住民から求められる情報等のサービスを提供する拠点として中心的な役割を担う施設でなければなりません。

現在、板倉町には図書館はなく、各地域にあります4公民館に図書室又は図書コーナーとして設置されています。限られた蔵書数・情報量の充実を図るため、近隣市町図書館等との相互利用サービスを実施していますが、多様化する生涯学習を支援するためには、学習機会のさらなる拡充として大学図書館との連携は必要不可欠です。大学図書館の持つ知識・情報提供は地域住民にとって重要であり、かつ大学図書館にしかない専門図書・雑誌が多くあります。これからは、蔵書数の確保及び情報や資料を求める利用者に対するレファレンスサービスの充実が求められています。

板倉町教育委員会生涯学習グループリーダー
小嶋 栄氏

朝霞市、志木市、新座市、和光市への図書館開放

「これからの大学図書館と市立図書館」

現在、朝霞市立図書館の年間利用者数は27万6858人、102万2596冊の本が貸し出されています。これら102万冊には市内に所蔵がないため、他市から相互貸借させていただいた資料も含まれています。

当館は市立図書館という性格上、広く市民の利用に供する資料構成を心がけている反面、専門的な資料に限られています。

埼玉県では県内横断検索に埼玉大学図書館が加入しているので、分野によっては専門的な資料の所在確認を行うことも可能となっておりますが、利用は閲覧のみとなっています。交通便などを考え合わせると、朝霞市民が利用しやすいとはいいがたいのが実情といえるでしょう。

今後、埼玉県図書館ネットワークにご加入いただければ、より広く市民にご紹介させていただくことが可能となり、逆に貴館では所蔵していない資料を、こちらから提供させていただくこともできます。

しかしながら、実際には物流をどのように行うかという問題もあり、大学図書館との連携をと考えている埼玉県立図書館も苦慮しているようです。

当館と貴館だけでなく、県内の大学図書館と公共図書館の物流ネットワークが結ばれば、市民、学生双方に大きなメリットとなることは間違いのないでしょう。一日も早く、そのような日が来ることを願ってやみません。

朝霞市立図書館

図書館サービス係主査 伊藤 麻紀子氏

川越シティカレッジとしての利用

「大学連携講座と大学図書館の地域開放について」

近年、地域活性化の起爆剤、地域づくりの核として、地元で大学を積極的に活用した各種の取り組みが全国で行われています。加えて大学の果たすべき機能として、教育・研究と並んで社会への貢献は重要なものと認識されています。

川越市では、平成14年の川越市制80周年を契機に、東洋大学工学部に市内の他の大学に先駆け、市のシティカレッジ講座と共催でサテライト講座を開催していただきました。以来、毎年市民向けに、独自に講座開発をしていただいております。合わせて15回の講座、延べ976名の受講生の参加を得ております。

そのような中、東洋大学川越キャンパスの図書館には、講座開始当初より受講生への図書館開放を行っていただいております。

学問・知識の集積地である大学、その中心となる図書館には、公立図書館にはない専門図書を多数所蔵しており、大学図書館の開放は、知的好奇心旺盛な受講生から好評をいただき、市としても大変感謝しているところです。

川越市の総合計画でも、広範な領域において、大学をまちづくりの重要なパートナーに位置付け、協働の理念の下、相互理解を深めつつ、共に行動していくことにしており、今後は川越市立図書館と大学図書館との相互利用等で、大学の知的財産を地域に還元することを目的とした地域開放が一層進み、地域と大学が共に発展していければと考えております。

川越市総合政策部大学設置準備室 室長 岸田 政明氏

— 特集 —

『源氏物語』を考える

— 『源氏物語』 千年紀に寄せて —

文学部 日本文学文化学科 教授 河地 修

『源氏物語』が成立して、今年で千年を迎える。これは、必ずしも厳密な数字ではないのだが、『紫式部日記』に『源氏物語』が寛弘5年（1008）には宮中で読まれていた記事が載っており、記録上、その存在が確認されてから千年ということなのである。

『源氏物語』は、世界有数の長編文芸で、わが国を代表する名作古典として名高いが、意外とその真実の姿を理解している人は多くない。よくこの物語を「長編小説」と言う人がいるが、これなどはなほだ誤解のある認識なのであって、「物語」とは「小説」ではない。「物語」の原義は、ありていに言えば、「おしゃべり」ということなのであって、当時の生活文化というものを抜きにしては考えられない文芸のかたちなのである。

10世紀初頭前後から、貴族階層の女性たちの間で漢字を崩して一音を一字に充当させるいわゆる仮名表記が盛んになっていったのは周知の事実である。この仮名表記の隆盛と物語の隆盛とは連動している。当時の

貴族の上流階級の女性たちは、寝殿造りと呼ばれる邸宅に住んでいたが、そういう生活の中での最高の娯楽の一つが、教養ある女房とおしゃべり、あるいは、女房のおしゃべりだったのである。その「おしゃべり＝ものがたり」とはおもしろい話でなければならず、女房たちには、高度な情報収集能力と教養、そして洗練された話術が要求されたのである。これらのおしゃべりが、当時隆盛していった仮名に置き換えられ、あるいは新たに制作されたものが、文芸としての物語なのであった。また忘れてはならないことは、それらの物語は権門勢家では必ず絵画化されたということである。平安朝の物語は、まさに「文化」と呼ぶにふさわしい。

きわめて高度な文芸としての内容を持つ『源氏物語』でも、このような当時の物語一般のあり方と決して無縁ではなかった。

『源氏物語』を読んでいくと、基本的に、その設定が、主人公たちに近侍した女房の回想談というかたちになっていることがわかる。影のように主人のすぐ傍に仕えた女房だからこそ知り得た秘密が語られるという設定なのである。すぐ傍にいた女房が語るのだから、その話は真実であり、世間一般の人が知ることができない隠された真相の暴露といったおもしろさもある。『源氏物語』とは、基本的に老女房の遠い過去の回想の「おしゃべり」



「紫の上の面影を胸に、須磨へと向かう光源氏」

というかたちをとっているのである。

主人公光源氏は、天皇の庇護を受け、様々な恋の遍歴や苦難の道を経て、やがて准太上天皇という人臣最高位にまで登りつめていくが、この間、その生涯には輝かしい光の部分と、そして影の部分があった。生身の人間である以上、公的生活に対して私的生活というものがある。その中には、決して人には知られてはならない闇の部分も存在した。これらを源氏な



〔秋の夕暮れの須磨の浦、初雁を眺める光源氏〕

きあと、老女房が語り始めるという設定にもなっており、『源氏物語』は、まさに人間の正と負という真実の姿に、正面から向き合った物語と言えるのである。

このように、人間を正面から見据えるところにこそ、この物語の特徴があり、そういったことが、千年も読み継がれる理由なのではないかと思われる。そこには、人が懸命に生きていくということへの時代を超えた共感というものがあるのだと思う。事実、この物語に登場する主人公たちほど、その人生を懸命に生きた人たちはいない。一例を指摘しよう。

作者、紫式部は、主人公の光源氏に“母を知らぬ子”としての境遇を与えている。その光源氏が父の天皇の庇護を受けながらも懸命に政治家として生きていく。その生涯は、まさに波乱に満ちた生涯であった。また、物語の最大のヒロインである紫の上も、“母のない子”として登場する。基本的に母系制であった平安時代、母がいらないということは、その子が人生を全うする上で、ほとんど絶望的な状況であったと言っていい。この物語の男女両主人公、あるいは他の人々も、そういった苦難の道を懸命に生きていったのである。むしろ、『源氏物語』は、物語の伝統を踏まえて華やかな恋に彩られてはいる。娯楽としての物語の要素は、決して忘れられてはいない。

作者、紫式部は、読者を十分楽しませながらも、し

かし、人間とはどういうものか、また、生きていくということ、幸せをつかむということがどんなに難しいものであったか、ということを繰り返し読者に語りかけているのである。ことはこの平安朝の時代に限ったことではない。

『源氏物語』は普遍的なテーマを充溢させて、今も、そしてこれからも我々の前にある。

〔図版写真〕

源氏物語 一須磨巻—
奈良絵本 列帖装一帖
(白山図書館所蔵貴重書)

河地 修

(かわぢ おさむ)

文学部 教授

専攻・専門分野・所属学会等

平安朝文学文化専攻

古代日本文学史論・物語研究・

王朝文化史論

中古文学会等に所属

著書・論文・研究テーマ等

『源氏物語の鑑賞と基礎知識—桐壺—』(共著)(至文堂)

『源氏物語の鑑賞と基礎知識—帚木—』(共著)(至文堂)

『源氏物語の鑑賞と基礎知識—常夏・篝火・野分—』

(編共著)(至文堂)

『中古文学研究』(共著)(双文社出版)

『伊勢物語論集—成立論・作品論—』(竹林舎) ほか





「図書館資料の汚・破損／無断持ち出し

～図書館はみんなの財産です～」



最近、図書館資料の汚・破損が問題視され、話題になっています。このことは、新聞やニュースでも報じられたこともあります。本学図書館も例外ではありません。これまでに切り抜きやマーカー、鉛筆でのラインが入ってしまっている資料を返却時などによく見かけます。(写真は2008年1月に返却された資料です。)次に利用する方がこのような資料を手にしたとき、どのように思うでしょうか。自分の読みたい部分に書き込みやラインが引かれていたら、読み取り方や感想がそれにより左右されて、勉強をする気も失せてしまうのではないかと思います。

こういった被害は「器物損壊」(刑法261条)にあたると言われています。



また、無断持ち出しも後を絶ちません。2007年度の図書館の蔵書点検<書架の資料点検>で初めて不明と判断された資料は、約420冊。古い資料もありますので厳密には言えませんが、金額にしてもかなりの損失になります。もちろんすべてが持ち出しということは考えにくいですが、利用できなくなった資料がこれだけあるとなると、利用者の皆さんが大きな損害を受けていることは確かです。

こういった被害は「窃盗」(刑法235条)にあたると言われています。

図書館の資料は消耗品ではありません。ほとんどの資料が大学の財産として永久に保存されていきます。電動書庫などに配架された古い和綴じ本や、戦後間も

なく購入した資料などは、これまで東洋大学の歴史とともに守り続けられた財産です。こういった資料を利用者の皆さんに提供することができるのも、これまでの先輩方が図書館資料を大切に使ってきたことにより実現できています。今後、被害が酷くなるようであれば、利用の制限などを考えなくてはなりません。図書館はそのようなことを決して望んでいません。

長期延滞資料も大きな問題になっています。図書館の本には魔力が働くのでしょうか。「返さなくてもいい。」「返したことにしまえ。」などと考えてしまうのかもしれませんが。レンタルビデオ店のように延滞金がつきませんから、返却期限が過ぎたときの焦燥感は薄いのではないかと思います。延滞金制度を設けている大学図書館もありますが、本学図書館では罰則として延滞した期間の貸出を停止しています。利用者の皆さんに必ず返却期限を守っていただけることを前提として貸出をしています。期限を過ぎても返却されないままですと、予約サービスを利用する方にいつまでも提供できません。自分が延滞していることによって、他の人に迷惑をかけているということを認識してほしいと思います。

一部の利用者の方のために、このようなことを書かなければならないことは、普段から図書館をきれいに利用し、返却期日などのルールを守っている方に対しては申し訳ない気持ちでいっぱいでしたが、今回はあえて図書館がいま困っていることを書かせてもらいました。

図書館資料を私物化せずにきれいに利用していただきたいと切に願います。

我々図書館員は、利用者の皆さんときれいな使いやすい図書館づくりを目指していきたいと考えています。

図書事務課員 新山 文洋

参考文献

小泉徹 「図書館のモラルを生き延びる道を教えよ」(現代の図書館 VOL45 No2 2007)

図書館の ギモン

Q：「レファレンス」って何ですか？

A：図書館員が利用者の学習・研究・調査などをサポートするサービスです。図書館の利用方法や資料の探し方、資料に関する質問や相談、文献に関する調査などの相談に応じています。本学図書館にない資料やコピーを他機関から取り寄せたり、他機関利用のための紹介状発行もこちらで行っています。ぜひ遠慮なく相談してください。

Q：辞書などの参考図書はなぜ館外貸出をしないのですか？

A：辞書や事典、年鑑や白書などは、通読せず必要な箇所だけを読めばよいもので、何かを調べるため来館される利用者のために常時備えておく必要があるため、貸出禁止としています。

Q：卒業しても図書館を利用できますか？

A：利用できます。卒業証明書、修了証明書、または卒業証書（いずれもコピー可）および現住所のわかるもの（運転免許証など）をお持ちください。確認の上、「東洋大学図書館利用カード」を発行いたします。

Q：他大学の図書館を利用できますか？

A：原則として、本学図書館長発行の紹介状（閲覧願）が必要です。詳しくはカウンターでご相談ください。山手沿線私立大学図書館コンソーシアムの参加大学（青山学院本館、学習院、國學院、法政市ヶ谷、明治、明治学院、立教本館）へは学生証を持参すれば利用できます。図書館ホームページで利用条件を確認してからお出かけください。

図書館活用ガイド紹介

図書館活用ガイドは、図書館の使い方のコツをできるだけ簡単に分かりやすく説明しています。皆さんの学習・研究の疑問をひらめきに変える案内役として10タイトル作成されています。図書館を上手に活用して大学生活を有意義なものにしましょう。

- 「知ってる？図書館でできること」
- 「図書の探し方 OPACを使おう！」
- 「OPACを使って図書を予約しよう！」
- 「必読！法令・判例の調べ方」
- 「リサーチ力UP!!企業情報の調べ方」
- 「迷わずサクッと！新聞記事の探し方」
- 「検索カンタン!!電子ジャーナルのいろは」
- 「どうする？どうする？論文・レポート作成」
- 「WEBで簡単！データベースに挑戦！」
- 「論文や雑誌記事を検索しよう！MAGAZINEPLUSの使い方」

○図書館内の配布以外に、図書館ホームページからもダウンロード可能です。是非ご利用ください。



白山図書館

- 『わたし達の東洋大学』(常設展) 3月21日(金)～5月16日(金)
- 『ペリー来航と開国・開港』5月15日(火)～7月23日(月)
- 『源氏物語の世界』8月1日(水)～10月12日(金)
- 『釈迦とその教え』10月16日(火)～11月30日(金)
- 『東洋大学に学んだ人々』(ホームカミングデー) 11月3日(土)
- 『「大日本物産図絵」から見た庶民の生活・産業』
12月4日(火)～1月12日(土)
- 『優しさのこころと形 ～世界を舞台にボランティア～』
1月15日(火)～2月29日(金)



川越図書館

- 『野球・東都大学リーグ展示』4月23日(月)～6月30日(土)
- 『源氏物語の世界』7月2日(月)～7月20日(金)
- 『工学部創設展』11月12日(月)～11月30日(金)
- 『川越の蔵造り展』12月3日(月)～12月21日(金)

朝霞図書館

- 『スポーツ・テーピング スポーツ・マッサージ ～傷害予防と応急処置～』4月9日(月)～6月2日(木)
- 『世界のインテリア ～住環境を彩るデザイン～』6月18日(月)～8月30日(木)
- 『優しさの心と形 ～世界を舞台にボランティア～』10月1日(月)～11月30日(金)
- 『源氏物語の世界』12月10日(月)～12月22日(土)

板倉図書館

- 『東洋大学を知る』(常設展) 4月2日(月)～6月15日(金)
- 『女性作家の魅力を探る ～その生き方と作品～』
6月18日(月)～6月29日(金)
- 『向井千秋 ～日本人女性初の宇宙飛行士～』
10月22日(月)～11月2日(金)
- 『源氏物語の世界』12月3日(月)～12月14日(金)
- ※平成19年度は4館の巡回展として「源氏物語の世界」を実施いたしました。



館内のレイアウトが変わりました

白山図書館、板倉図書館では閲覧席を増設いたしました。
閲覧席フロアのレイアウトを一部変更いたしました。

白山図書館	1,411席 (61席増設)	新聞コーナー、B1F 閲覧席、B2F 閲覧席
板倉図書館	303席 (5席増設)	2F 個人閲覧席